

令和4年度もとみや結婚サポート事業 効果検証結果

資料5

測定指標	アウトプット	指標	計画値	実績値	評価検証方法
		1. 縁結びサポート制度			
		縁結びサポーター視察・交流会参加人数	15	5	受付人数
		縁結びサポーター登録者数	15	9	登録申請・決定数
		縁結びサポート制度相談者数	10	10	登録申請・決定数
		引き合わせ達成数	1	2	報告人数
		縁結びサポート制度チラシ配架	3,000	2,700	配布枚数
2. 結婚新生活支援事業					
		結婚新生活支援事業チラシ配架	3,000	2,700	配布枚数
		結婚新生活支援事業オンライン広告配信	1	1	配信回数
測定指標	アウトカム(KPI)	指標	計画値	実績値	評価検証方法
		1. 縁結びサポート制度			
		サポーター視察・交流会に参加しサポート方法についてイメージできた人の割合	100	100	アンケート調査
		サポーター視察・交流会での体験を踏まえて適切にサポートできた人の割合	100	25	アンケート調査
		支援を受けた相談者の満足度	80	16.7	アンケート調査
2. 結婚新生活支援事業					
		支給世帯実績/支給見込世帯数の割合	80	100	実績値
		婚姻届提出時における「本事業の認知度」	65	43.8	アンケート調査
		補助金申請時における「地域に応援されていると感じた世帯の割合」	100	87.5	アンケート調査

事業の評価	評価	<p>①縁結びサポート制度に関する指標について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふくしま結婚・子育て応援センター視察及び交流会を実施したが、サポーターの参加率が56%と低い結果となった ・引き合わせ達成数は2件であったが、相談者へのアンケート結果によると、縁結びサポート制度の満足度は16.7%であり、8割以上の相談者が制度に対して、不満があるという結果となった ・サポーターへのアンケート結果によると、「サポーター視察・交流会に参加しサポート方法についてイメージできた人の割合」は100%であり、サポート活動に対して、有効な知識・情報を提供できた。しかし、「サポーター視察・交流会での体験を踏まえて適切にサポートできた人の割合」は25%と低く、実際に結婚活動を支援するのは難しく、各サポーターも苦勞しているということが分かった <p>②結婚新生活支援事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度から実施しているが、令和4年度は過去最大の申請数(16組)であり、前年の申請数(9組)の約1.8倍の申請数という結果になった。 ・令和2年度から3年連続で申請数が増加しており、広報・周知の活動が着実に結果に繋がっている ・「婚姻届提出時における本事業の認知度」については、令和3度が22.2%であり、令和4年度は約2倍の43.8%に上昇した。しかし、50%を下回っており、認知度としては低い状態である。 ・経済的不安の軽減による結婚の後押しのためにも、婚姻届出前の事前認知度を向上させる取組が必要であり、一層の広報・周知を図る必要がある
事業の評価	改善策	<p>①縁結びサポート制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談者の満足度が低い理由としては、引き合せが挙げられる。現在の相談者は10名全員が男性であり、近隣自治体と連携しているものの、相談者同士の引き合わせが困難な状況である。相談者の希望を叶えるために、登録者が多く成婚実績もある福島県の結婚支援制度(結婚世話やき人、はぴ福なび)を案内し、活用を促す <p>②結婚新生活支援事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は申請件数が過去最多になったことから、婚姻届出窓口や市内外不動産事業者等に対するチラシ配布、市ホームページ及び広報紙を活用した広報活動を継続していくとともに、若年層に向けた制度周知を行うため、SNS広告など、様々なメディアチャンネルを積極的に活用していく
	長期的展望	<p>結婚新生活支援事業により、経済的な不安を払拭し、誰もが結婚のしやすい環境を整える。そのためにも、時代に沿ったPR方法を模索し続けながら、効果的な広報・周知活動を行っていく。</p> <p>また、こおりやま広域圏及びふくしま田園中枢都市圏など、福島県のほぼ中央に位置する本市ならではの広域的な繋がりを活用した支援活動を実施していく。</p>